

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：11302

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531212

研究課題名(和文)人間教育としての音楽教育 ハンガリー・ドイツ語圏の理論・方法論と実践の研究

研究課題名(英文) Music Education to Enrich Human Nature - Study of the theory and the method practicing music education in Hungary and Germanic-speaking area -

研究代表者

降矢 美彌子 (FURIYA, Miyako)

宮城教育大学・国際理解教育研究センター・協力研究員

研究者番号：50132535

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：日本における人間教育としての音楽教育を構築するために、すでに実績をもつハンガリーとドイツ語圏の理論と方法論を実践的に研究した。ハンガリーからは、アーブラハム・マリアン、パヨル・マルタ女史を招聘し、日本の研究者とともに研究協議を行い、その成果を学会等で発表し、東京、仙台、福島、広島等各地で講座を開催した。わらべうた等から自国の伝統のアイデンティティを育てることの重要性を再確認し、更に、即興演奏によって創造性を育み、美術や文学など学際的なアプローチによって音楽を学ぶことによって、生涯にわたって豊かな人生を送ることを可能にする日本の音楽教育の構築について具体的な示唆を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：We have researched the outcomes in Hungarian and German Musical Education to get the ideas for concrete suggestions for music education as a human education in Japan. We invited Hungarian great music educators, Abraham Mariann and Pajor Marta and discussed with famous Japanese music educators. We presented our excellent outcomes in many places in Japan. The results of our research foster being able to live rich cultural life with music; help to inherit and cherish our own tradition as own identity, to develop creativity by improvisation with the interdisciplinary approach.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：ハンガリーの音楽教育 ピアノ指導法 人間教育 即興演奏 学際性 わらべうた

1. 研究開始当初の背景

当時の日本の子どもをめぐる状況は、不登校や学級崩壊、いじめや自殺、虐待など様々な問題をはらみ、子どものコミュニケーション能力や社会性の欠如などが指摘されている中、確かな学力と豊かな心、健やかな体の調和を重視し「生きる力」を育むことが現指導要領の目的となっている。また思考力・判断力・表現力、知識・技能を活用する能力の低下、自分への自信の欠如や将来への不安などは、先進諸国も同様に抱える問題でもある。

ハンガリーでは、コダーイ・ゾルターンが音楽教育を通じて全人的な教育を行う教育制度を構築し、大きな注目を浴びている。コダーイの理念に基づく音楽教育が、児童の知性と学習に関する様々な発達を促し、感性と豊かな表現と情感を育むことなどはすでに1960年代から指摘されてきたが、1990年代よりドイツ語圏でも音楽の学習転移効果についての研究が活性化している。2009年には、ハンガリーの音楽教育者パヨル・マルタが日本音楽教育学会第40回大会において講演し、コダーイの人間教育としての音楽教育の在り方を紹介した。

また、ハンガリーでは全人的な教育として、音楽科の枠を超え教科連携的な形態を創出しつつあり、ピアノ教育においては、2008年にアパジ・マーリアのピアノ教科書『ピアノの夢—創造的なピアノ学習』（以下『ピアノの夢』と表記）全3巻が出版された。この教科書は、絵画・建築・文学・数学などを総合し、それらに共通する側面を理解することを教育の出発点としている。

研究代表者の降矢は、多文化音楽教育、ハンガリーのピアノ教育・音楽教育を専門とし、多文化音楽教育においては、表現と鑑賞、知識や創作などの活動を有機的に関連させて授業を行うことによって、各音楽文化の担い手の心情を理解し共感することが大切であり、そのために五感を活用した直接体験が必要であるという研究結果が得られた。子どもが多様な音楽文化と出逢い、様々な角度からそれらを体験することがその後の人生を豊かに生きる糧となるという視点は、ハンガリーの音楽教育の方向性と大きく共通するものがあつた。

2. 研究の目的

本研究は、教養ある豊かな人間性の育成を目的とするハンガリーの音楽教育の実践とその成果の研究を軸とし、ハンガリーの音楽教育と関連の深いドイツ語圏の音楽教育研究の成果を明らかにし、総合的に「人間教育としての音楽教育」の在り方を探り、子どもの人間的な発達を促し、「生きる力」を育む音楽教育の可能性を、具体的な方法論として探ることである。

3. 研究の方法

豊かな人間性の形成を目的とするハンガリ

ーの音楽教育に学ぶために、研究協力者として2011年には、アパジ・マーリアのよき理解者であり『ピアノの夢』に推薦文を寄せているハンガリーのピアニスト、アーブラハム・マリアンを、2012年にはパヨル・マルタを招聘し、各地で講演及びワークショップを行った。主に音楽教育者・ピアノ教育者を対象に、ハンガリーの人間教育としての音楽教育の理念を広く知らしめ、大きな反響を得た。

招聘準備のため、またアパジ本人に直接『ピアノの夢』の理念と指導法を学ぶため、研究代表者が3年間で3度ハンガリーに赴き、詳細な聴き取り調査を行った。またアパジ自身によるハンガリーの子どもに行ったピアノ指導の実際を取材し、それらの研究結果をもとに日本音楽教育学会にて研究発表を行い、また論文にまとめた。

また、日本において人間教育としての音楽教育を実践している教育者や研究者、関連するドイツ語圏の音楽教育研究者らによる研究協議会を開催し、日本音楽教育学会において共同企画として発表した。これらの成果を論文にまとめた。

4. 研究成果

(1) アパジ・マーリア著『ピアノの夢 創造的なピアノ学習』にみる人間教育としてのピアノ教育

アパジ本人への聴き取り調査とピアノ指導実践の取材、ハンガリーのピアニストでピアノ教育界のリーダーであるアーブラハム・マリアンによる『ピアノの夢』の分析、そして『ピアノの夢』全3巻の翻訳と分析によって、アパジのピアノ教育理念と指導法の特徴は以下のようにまとめられた。

人間教育と位置付けていること。

内容と構成の学際性。

即興演奏の重視と目的の明確化。

については、ピアノ学習によって、「総合的な考え方が広がり、人格全体が豊かになり、将来どんな分野に進んでも役に立つような様々なことを知ることができる」という、『ピアノの夢』の序文からもうかがえる。またアーブラハムも、ハンガリーのピアノ教育において最も大切なことは、「ピアノ指導の最初の瞬間から、子どもが自立した若者になり、自分自身の考えや意見を持つように教育すること」であり、そのために教師と子どもの信頼関係を作り上げることが必要であると述べた。

については、『ピアノの夢』による指導法ではピアノ学習の始めから、音楽と自然・美術・科学・文学・数学などと関連させた学際的なアプローチを行う。具体的には、自然や詩、絵画、科学、数学などの音楽以外の様々な芸術や学問などと、音楽に共通する根っこを発見することから始めるのである。それは全てに共通して存在する構造の原理として、始めは「対比」から、段階的にいくつか

の重要な原理（リズム、シンメトリー、アシンメトリー、黄金分割、並行、繰り返し、再現）をテーマとして、『ピアノの夢』は構成されている。

については、『ピアノの夢』では、すべての学習段階にわたって即興の課題があり、非常に細密に系統的に書かれている。一つ一つの課題は誰にでも即興ができるように大変シンプルである。一音の様々な可能性とその吟味に始まり、基本の構造の原理である対比と推移による即興から、音楽史上のあらゆる様式や音階による即興へと進む。モデルとなる音楽の、要素や構成の原理を理解し、その様式による即興を行った後で、譜面に書き表し、推敲を加えながら、作曲という行為を体験する。最後に、モデルの楽曲に戻り、より深い理解を持って演奏する。このように即興・作曲・演奏の3つを統一して扱い、さまざまな時代やジャンルの音楽の言葉を習得することが、子どもの幅広いものの見方や豊かな人間性の育成につながるというのが、アパジのピアノ指導法の画期的な特徴である。

アパジの理念は、ハンガリーの音楽教育を支えるコダーイの理念の上に、今日的に求められる学際的な視点を加えて発展させたものということができる。また、コダーイの理念は近隣のドイツ語圏の音楽教育と深い関連を持っていた。2011年10月の日本音楽教育学会大会共同企画においては、小山英恵が20世紀のドイツ語圏の音楽教育家であるフリッツ・イエーデの音楽教育について、人間教育を目的に位置づけることや、即興を取り入れた創造的アプローチ、他分野との連携、子どもの生活との結びつきを重視するといった点において、ハンガリーの音楽教育と共通性を持っていることを明らかにした。宮本賢二朗はハンガリーとドイツ語圏の音楽教育の効果について述べ、ハンガリーにおいては音楽が国民を豊かにする文化財産としてだけではなく、子どもの発達を多面的に促進する教育手段として捉えられていること、またこのような捉え方がスイス・ドイツといったドイツ語圏で音楽教育の効果についての研究が行われるきっかけとなり、音楽教育が子どもの社会性を育成するという見解が共通していること、などが明らかになった。

(2) パヨル・マールタによるハンガリーの音楽教育についての講演とワークショップから

2012年10月にパヨル・マールタを招聘し、東京、奈良、仙台、福島において、講演及びハンガリーのわらべうたワークショップを行った。

コダーイは、就学前にハンガリーのわらべうたを歌い遊び、音楽の基礎として、歌に含まれる音楽の構造や音の高低や長短、「速い遅い」の違いの認知を遊びの中で行う指導法を提唱した。パヨルは、「民族音楽からクラシック音楽へ」の講演の中でハンガリーの

わらべうたの特徴を明らかにするとともに、わらべうたや民謡が各国に伝播し、少しずつ形を変えながら、それぞれの国の作曲家の作品に取り入れられていることを明らかにした。ハンガリーのわらべうたのワークショップでは、一つの音楽的な課題を持って多種類のわらべうたを歌い遊んだり、一種のわらべうたを多種類の課題を持って即興的に遊んでいくという、実に多彩な内容であった。ハンガリーのわらべうたは日本と同じ5音階でできているが、用いられる音型が異なるので日本のわらべうたとは印象が全く異なる。日本の子どもたちに、伝統の質の全く異なる2つの国のわらべうたを即興的に歌い遊ぶ体験をさせることにより、豊かな感性を育み、将来的に多文化音楽の理解に有効であろう。

パヨルのもう一種の講演「音楽教育による人間性の育成」では、最近の脳科学の成果までを取り上げて、音楽学習がもたらす効果や、豊かな刺激と多くの楽しい体験にあふれた音楽教育が子どもたちの創造性や感受性を高め、人間性の育成につながることを、コダーイの言葉を交えながら語られた。

(3) 日本における人間教育としての音楽教育の実践例から

日本の学校教育の現場においても、子どもの人間性を育む音楽教育を実践している例がある。2012年2月に東京で行われた研究協議会「人間教育としての音楽教育」と、2012年10月に日本音楽教育学会共同企画におけるパネルディスカッション「人間教育としての音楽教育 教材と指導法を考えあう」では、小学校から大学、特別支援教育の現場において、優れた教材と指導法によって子どもたちに豊かな人間性が育つという報告が行われた。これら2回にわたる実践報告では、子どもたちをめぐる社会状況が大きく変化し、子どもや家庭に様々な課題が累積していることなどの問題が指摘された反面、厳しい現状の中でも優れて子どもたちを育てる実践が可能であることを示した。

これらの実践報告に共通する視点をまとめると、以下の4点になる。

- 伝統的な教材の重要性
- 創造性の育成の重要性
- 総合化の重要性
- 子ども（学生）同士の学び合い

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

降矢美彌子、岩淵瑛子、ハンガリーのピアノ教育の発展 学際的な内容を持つアパジ・マリア著『ピアノの夢 創造的なピアノ学習』における即興演奏指導法、仙台白百合女子大学紀要、査読有、第18号、2014、69-89

降矢美彌子、岩淵摂子、人間教育としての音楽教育 わらべうたから始めるハンガリーの音楽教育と日本における実践例、帝京平成大学紀要、査読有、第24巻第1号、2013、149 - 183

降矢美彌子、岩淵摂子、ハンガリーのピアノ教育の発展 アバジ・マリア著『ピアノの夢 創造的なピアノ学習』の意義、帝京平成大学紀要、査読有、第23巻、2012、135 - 125

〔学会発表〕(計5件)

降矢美彌子、岩淵摂子、ハンガリーのピアノ教育における即興指導法 アバジ・マリア『ピアノの夢』から、日本音楽教育学会、2013年10月13日、弘前大学

パヨル・マルタ、わらべうたワークショップ ハンガリーからパヨル・マルタさんをお招きして即興性と指導法を学ぶ、日本音楽教育学会、2012年10月8日、東京音楽大学

降矢美彌子、藤田加代、粕谷雪子、竜田晴美、宮本賢二郎、工藤傑史、加藤富美子、パヨル・マルタ、人間教育としての音楽教育 教材と指導法を考えあう、日本音楽教育学会、2012年10月8日、東京音楽大学

降矢美彌子、アーブラハーン・マリアン、宮本賢二郎、小山英恵、人間教育としての音楽教育 アバジ・マリアのピアノ教育の理念と方法、ドイツの音楽教育との関連において、日本音楽教育学会、2011年10月22日、奈良教育大学

降矢美彌子、岩淵摂子、ハンガリーのピアノ教育の発展 絵画・建築・数学などを総合し、即興を重視するハンガリーのピアノ教科書(アバジ・マリア著『ピアノの夢 創造的なピアノ学習』全3巻)の意義、日本音楽教育学会、2011年10月22日、奈良教育大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://blogs.yahoo.co.jp/ichikawa_f_mijako/52836412.html

講演及びパネルディスカッション

降矢美彌子、アーブラハーン・マリアン、人間教育としてのハンガリーのピアノ教育について、関西カワイ音楽教育研究会、2011年10月21日、ムラマツリサイタルホール

降矢美彌子、アーブラハーン・マリアン、人間教育としてのピアノ教育-アーブラハーン女史を招聘して-、旭堂楽器店、2011年10月20日、旭堂楽器店

降矢美彌子、アーブラハーン・マリアン、人間教育としてのピアノ教育 アーブラハーン・マリアン女史を招聘して、広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座、2011年10月18日、広島大学

降矢美彌子、アーブラハーン・マリアン、粕谷正一、粕谷雪子、加藤富美子、小山英恵、宮本賢二郎、人間教育としてのピアノ教育 アーブラハーン女史を招聘して、2011年10月16日、実践女子学園中学校高等学校

6. 研究組織

(1) 研究代表者

降矢 美彌子 (FURIYA, Miyako)
宮城教育大学・国際理解教育研究センター・協力研究員
研究者番号：50132535

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

岩淵 摂子 (IWABUCHI, Setsuko)
仙台白百合女子大学・人間学部人間発達学科・特任講師
研究者番号：40600391

(4) 研究協力者

アバジ・マリア (APAGYI Mária)
マルティン・フェレンツ芸術自由学校・音楽部門・元主任

アーブラハーン・マリアン (ÁBRAHÁM Mariann)
バルトーク高等音楽学校・教授

パヨル・マールタ (PAJOR Márta)
ペーチ大学・イエーシュ・ジュラ教育学
部・元副学部長

小山英恵 (KOYAMA Hanae)
鳴門教育大学・芸術・健康系教育部・准教
授
研究者番号：20713431

宮本賢二郎 (MIYAMOTO Kenjiro)
浜松学芸高等学校・芸術科・教諭